うれないし列伝

第三話　ウナギのたれです！

山田海月(やまだみつき)

今日もそそくさと占いのお仕事です。
「おはようございます」から始まる、いつもの怖そうな占い師、ホシミさんと一緒です。

朝一番からホシミさんはお客さんです。忙しく働いています。え、なぬ、ホシミさん、笑ってる？！　恐そうな占い師、ホシミさんの不気味な笑顔です。
ホシミさんの不気味な笑顔で思い出しました。ウナギの話です。
以前ホシミさんから聞いたウナギのお話しをしようと思います。
ホシミさんは交友関係が広くイベントのお仕事もしています。あるイベントのお仕事をしたときのことです。「イベントに参加してくれたお礼」ということで地下のウナギ屋でうな丼をご馳走してもらったのです。このことをホシミさんは嬉しそうに話してくれました。ウナギと言えば、ランチでも2000円はするのでしょうか、お昼から豪華です。
私は貧乏占い師なのでウナギは盆と正月しか食べません。
いつだったか知り合いにどうしてもウナギが食べたいと相談したんです。そしたら、ウナギのたれはどう、というのです。「ウナギのたれとご飯ですよ」。私は聞き返します。「え、ウナギのたれとご飯ですか？」
「おいしいから食べてみたらどう」というので、ウナギのたれを買いました。100円くらいだったでしょうか。
ところが、想像以上にいけます。おいしいではありませんか、これが毎日続くとなるとなんだか悲しく切なくなりそうですが、もう少し工夫をすればご馳走になりそうな感じです。そうですよね、スーパーのお値打ちなウナギでも、工夫次第で美味しいウナギになり、美味しいご馳走になります。テレビ番組でスーパーのウナギが美味しくなる魔法を見たときは目からウロコな気持ちになりました。貧乏な私でもなんだか、手が届きそうでうれしくなりました。お金のゆとりではなく、心のゆとりを感じ、とても微笑ましくなりました。
ホシミさんは地下のウナギはおいしかったと言ってました。私もいつか貧乏占い師から売れっ子？占い師になれたならウナギ3人前を頼み、よく頑張ったな、って自分を褒めてやろうと思います。
今回は、ウナギのたれとご飯は自分が思ってたよりもいける、毎日食べるのにはちょっとどう？　って言うお話しですが、苦労してない人は聞き流して下さいね私は、小さなつぼみでもいつか必ず花が咲くと信じて、これからも占いの勉強をしていきます。大きな声でいうのは恥ずかしいのですが、いつかきっと飛躍出来る日が来ることを願っております。